

【方針2】豊かさが実感できる暮らしの実現

6 誇りある暮らし実現プロジェクト

～景観・自然・文化に囲まれた「誇り」ある暮らしの実現～



美しい景観や自然、文化を守り、育て、活かすことにより、豊かなライフスタイルを充実させ、信州人としての誇りを持って暮らせる地域の形成をめざします。

アクション1 農山村の活性化支援

伝統文化の継承や農山村ならではのライフスタイルの提案、地域に活力を与える多彩な人材の誘致など、市町村と住民が一緒になった「信州の宝」である美しい農山村の活性化を支援します。

アクション2 地域づくり人材の確保・育成

「人の力」でふるさとを守るため、移住・交流を推進するとともに、地域づくりに取り組む人材の確保やリーダーの育成を推進します。

アクション3 美しい景観の維持創造

豊かな自然や農山村の営みなどにより形成されている美しい景観の価値を維持・創造する取り組みを進めます。

アクション4 身近な自然環境の保全創造

多くの人々が豊かな自然とふれあうことができる身近な自然環境を保全・創造します。

アクション5 個性際立つ文化芸術の振興

本県に数多く存在する個性際立つ文化芸術・文化財の継承と振興を進めます。



(1) 農山村の活性化支援 (2) 地域づくり人材の確保・育成 ～特色ある地域づくりの推進～



【取組のポイント】

- 市町村と住民が一体となり「信州の宝」である美しい農山村の活性化を支援
- 地域づくりに取り組む人材の確保、リーダーの育成

現状と課題

地域おこし協力隊の受入人数 **全国2位**

高齢者率50%以上の集落が**増加傾向**

集落機能の維持・活性化が課題

県内の過疎地域等集落

区分	H18	H22	H27
調査集落数	1,707	1,736	2,029
高齢者（65歳以上）の割合が50%以上の集落の割合	19.2%	23.0%	23.1%

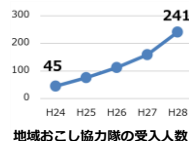
(出典：総務省・国土交通省「過疎地域等条件不利地域における集落の現状調査」)

主な取組

- 生活サービス・交流機能を提供する**小さな拠点形成のためのセミナーや研究会の開催**(H27年度～)
- 地域おこし協力隊の**研修会開催等受入体制の支援**(H26年度～)
- 現場での活動を通じた**実践的な研修による地域づくりリーダーの育成**(H26年度～)

成果

- 小さな拠点形成** (目標 H31 40か所)
H29.3.31現在38か所
- 自分の暮らしている地域に**誇りを感じる人の割合の維持・向上** (目標 H29 83.9%)
H27年度 80.6% → H28年度 83.5%
- 地域おこし協力隊の受入人数の増加**



(出典：地域振興課調べ)

(3) 美しい景観の維持創造 ～美しい信州の農村景観の保全と育成～



(写真出典：ふるさと信州風景100選/048美麻新行)

【取組のポイント】

- 美しく豊かな信州の農村景観の再発見と国内外への発信
- 観光資源化による観光大県信州の魅力向上
- 持続的な農村景観の保全と育成

現状と課題

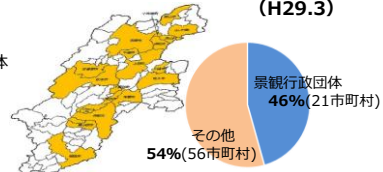
「景観行政団体※」への移行促進

※景観法に基づき良好な景観形成のための自主的な施策を実施する自治体

観光に繋げる景観の育成

信州の景観を次代に継承する県民運動の醸成

景観行政団体市町村数と県土カバー率
(H29.3)



(出典：都市・まちづくり課調べ)



「ふるさと信州風景百選」
冊子発行(7,000部)



「ふるさとの見える丘」
(入笠すずらん公園からの景観)



風景の「語り部」の育成
研修参加者延べ738人(H29.3)



パネル展実施(39か所)

主な取組

- 市町村の「景観行政団体」への移行支援(H16.12～)
- ふるさと信州風景百選の普及とビューポイントづくりの支援(H25.4～)
- 風景の「語り部」の育成(H26.4～)

成果

- 景観行政団体へ移行
現状：21市町村(H28)
目標：25市町村を達成(H32)
- ビューポイントの整備
現状：38か所(～H28) 目標：50か所(H29)

(4) 身近な自然環境の保全創造

～豊かな自然環境を守り育てるために～



(写真出典：諏訪地方事務所提供)

<取組のポイント>

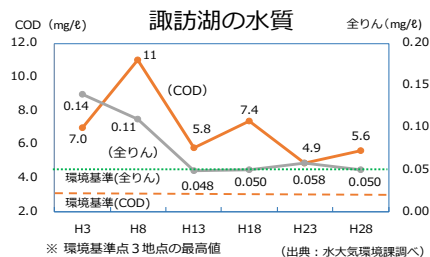
- 里山の間伐と間伐材の利活用を通じた森林づくり
- 登山道整備等山岳環境保全の取組推進
- 「人と生き物が共存する諏訪湖」を目指し水質保全の取組推進

現状と課題

手入れの遅れた里山が依然として存在

諏訪湖の水質は**着実に改善**、
環境基準を全りんは達成、CODは未達成
ヒシの大量繁茂、湖底貧酸素等の発生

県民1人1日当たりのごみ(一般廃棄物)
排出量が少ない都道府県**2年連続NO.1**



主な取組

- 里山資源の利活用等への支援
間伐材等のモデル的な利用(H25年度～)
里山資源を活用するリーダーの育成(H27年度～)
- 民間企業等からの寄付金活用をはじめ
(H21.7～)、山域の将来像に沿った本格的
登山道整備をスタート (H27年度～)
- 「シジミが採れる諏訪湖」に向けた
砂場の試験造成(H27年度～)
- “チャレンジ800”ごみ減量推進事業
(H27.2～)

成果

- 間伐材を利用した23の
モデル的取組を支援
(目標:H29までに25取組を支援)
- 登山道整備等を6団体の支援により進
めるとともに登山道危険箇所を解消
(93箇所)
- 淡水シジミの定着を確認
- 1人1日当たりごみ排出量836g
(H27年度)
→目標800g以下まであとミニトマト2つ分!



新ステーションの整備
(塩尻市)

(5) 個性際立つ文化芸術の振興

～生涯を通じて文化に親しむ環境づくり～



<取組のポイント>

- 文化芸術の担い手育成と、参画・鑑賞機会の拡大
- 県民参加による信濃美術館の整備の推進
- 地域に受け継がれる伝統文化の継承・活用

現状と課題

文化芸術活動に参加した人の割合
62.5% (H24) → **70.1%** (H28)

信濃美術館は開館から50年が経過し、老朽化が著しい



主な取組

- （一財）長野県文化振興事業団に芸術監督団4名配置
 - 【舞台】 串田 和美氏
 - 【音楽】 小林 研一郎氏
 - 【プロデュース】 津村 卓氏
 - 【美術】 本江 邦夫氏
- 信濃美術館の整備に向けて、「信濃美術館整備基本構想」(28.11)を策定
- 文化財の保存修理及び防災事業の拡充

成果

- 文化芸術による人づくりの推進と、文化芸術に親しむ機会の拡大
セイジ・オザワ 松本フェスティバルの延べ鑑賞者数(H25～H28累計) 276,266名
- 県民参加による信濃美術館整備の推進
開館目途 平成33年度当初
- 文化財の適切な保存・継承
文化財修理等補助【予算額】(補助件数)
H24 40,000千円(39件)
↓
H28 82,240千円(49件)

6 誇りある暮らし実現プロジェクト

達成目標の進捗状況

(総括マネージャー 企画振興部長)

進捗区分 ●「A」：目安値以上 ●「B」：80%以上100%未満の進捗
 ●「C」：80%未満の進捗 ●実績値なし：今年度実績値が把握できない
 ・進捗割合=(実績値-基準値)/(目安値-基準値) ・目安値：各年の目標値

行政サポートによる移住者数	年度	単位	基準値(H23)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目安値	人		600	700	800	900	1,000
	実績値		456	510	763	927	1,074	
	進捗区分			C	A	A	A	
	【関連データ】							
指標名				H25	H26	H27	H28	
移住したい都道府県ランキング				1位	1位	1位	1位	出典：田舎暮らしの本(主婦社)調べ

(進捗状況の分析)
 相談員の増加等による相談体制の充実や、田舎暮らし「楽園信州」推進協議会の取組の定着により、順調に推移しています。また、移住希望地ランキングでも上位を維持しています。

(今後の取組)
 ・三大都市圏(東京、大阪、名古屋)での移住相談
 ・ターゲットを絞った移住相談セミナーの開催

都市農村交流人口	年度	単位	基準値(H22)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目安値	人		560,000	578,000	580,000	590,000	600,000
	実績値		546,544	608,073	599,351	604,427	624,909	
	進捗区分			A	A	A	A	

(進捗状況の分析)
 グリーンツーリズムの推進や都市農村交流施設の整備等に対する支援、農林業体験を活用した学習旅行の誘致等により交流が順調に進んでいます。

(今後の取組)
 ・県内各地で行われているグリーンツーリズム情報を全国に発信
 ・都市農村交流推進のためのセミナー、ツアーを開催

6 誇りある暮らし実現プロジェクト

自分の暮らししている地域に誇りを感じる人の割合	年度	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目安値	%		83.9	83.9	83.9	83.9	83.9
	実績値		83.9	84.6	79.9	80.6	83.5	
	進捗区分			A	C	C	C	

(進捗状況の分析)
 H27年度と比較し2.9ポイント増加しましたが、年代別に見ると、70歳代以上の評価が12ポイント上がり、全世代の中で最も高くなったものの、20歳代で△4ポイント、30歳代で△9ポイントと評価が下がり、目安値に到達しませんでした。

(今後の取組)
 ・誇りを感じる分野で評価の高かった「豊かな自然環境」「農山村景観」に係る取組(諏訪湖の環境改善、世界に誇る信州の農村景観の育成など)を引き続き推進
 ・元気づくり実践塾の開催や地域おこし協力隊への支援を通じて、若い地域づくり人材を確保・育成

文化芸術活動に参加した人の割合	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目安値	%		64.0	65.5	67.0	68.5	70.0
	実績値		62.5	59.9	62.4	64.9	70.1	
	進捗区分			C	C	C	A	

(進捗状況の分析)
 平成27年度を「文化振興元年」と位置付け、新たに造成した「文化振興基金」の活用により進めてきた取組が一定の成果を表してきているものと考えられます。実績値を分析すると、平成27年度調査と比べて男女ともに70歳以上の者の「文化芸術活動に参加した人の割合」が前年度を上回っており、文化芸術活動に親しむ高齢者が増えている傾向が見えます。

(今後の取組)
 ・音楽・演劇・美術の各分野で「芸術監督団」による事業を展開するなど「文化振興元年」の取組の発展・充実を図る
 ・県民参加による信濃美術館の整備推進
 ・県民芸術祭の開催
 ・セイジ・オザワ 松本フェスティバルの開催支援